

就任挨拶

副会長
太田賢司



この度、副会長職を務めさせていただくことになりましたシャープの太田でございます。よろしくお願いいたします。

1,200社に近い企業を会員として有する知財協の副会長という要職に就かせて頂くことは身に余る光栄と感謝しております。就任にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

私はシャープ株式会社入社以来一貫して研究開発に携わってまいりましたが、研究所長となりマネジメントを行うに当たり、この時の経験をもとに技術者と知財担当者との橋渡しに注力していました。図らずも2009年3月から知的財産権本部長を兼務することになりましたが、今度は経営者の立場から技術開発と知財マネジメントとを見るにつけ、新たな視点が必要と思うようになってまいりました。

ちょうどこのような時、知財管理誌の3月号に小川特任教授の論文が掲載されておりましたのを拝見して、非常に感銘を受け同調の思いを抱いた次第です。近年の日本企業の業績変動の大きなことは、世界経済の激変の波を直に受けた結果であると思いますが、産業構造と知財マネジメントについての長年の問題がここにきて表面化してきたためとも思われます。弊社もまさにこの渦中にあり、将来の事業として力を入れている太陽電池の分野でも、特許権をほとんど持たない企業が特許権を持つ企業の業績を上回るという状況に陥っております。知財協の会員企業の皆さんにおかれても、程度の差こそあれ同じような課題に直面していることと思います。

こういう時代にこそ、企業間の情報交換活動の場、更に経済と知的財産権、企業活動と特許権などについて調査・研究活動をお互いに協力し合いながら行う場をも提供する知財協のような団体の価値が高まるのではないかと、重要さが増すのではないかと考えています。協会の政策プロジェクト、専門委員会、国際活動といった幅広い活動が、中堅社員からベテラン社員までの多彩なメンバーで行われるという点に大きな意味があります。単なる課題の抽出とその研究、解決手法の提言にとどまらず、活動そのものが社員の育成、人材の開発の大きな部分を担っているということが重要と考えています。こういう方法での人材開発こそが、今後知財協の存在意義をますます高めてゆく源と思慮しています。

知財協への期待がますます大きくなる時期に副会長という重責を担うことになりました。お役にたてるものか不安もございますが、誠心誠意努めさせていただく所存でございますので、何卒ご指導、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。